

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立蔦淵小学校

1 自己評価書

教育目標	地域に夢と愛着を持ち、たくましく生きる蔦淵っ子の育成				
基本方針	本校の文化と伝統を継承しつつ、愛媛県教育委員会並びに宇和島市教育委員会の基本方針に基づき、児童の「生きる力」を育み、一人一人のウェルビーイングと包摂的で持続可能な地域社会の共創を目指して、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を通して、地域とともに歩む学校づくりに努める。				
本年度重点目標	1 「確かな学力」の定着と向上 2 「豊かな心」の育成と人権教育の推進 3 「たくましい心身」の育成と生徒指導の充実 4 特別支援教育の充実 5 防災・安全教育の推進				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	B
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	B
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	B
④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。 ・教師アンケート C ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート D	C	C	
⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート A ・児童生徒アンケート B	B	B	
<p>(成果と課題) ○読書活動について、読み聞かせを行ったり、巡回図書への興味を持てるよう働き掛けを行ったりしたが、十分に効果が表れなかった。 ○総合的な学習の時間を中心に、地域人材や地域資源を生かした探求的な課題を設定する中で、情報収集、整理、分析、まとめをしていく活動を実践している。この活動を通して、地域のことを深く学ぶことで地域の良さを発見し、地域への愛着の醸成を図るとともに、持続可能な地域への発展を目指そうとする心情が高まることを期待している。</p> <p>(改善策等) ○読書活動の推進を確かなものにするために、家庭、地域、学校との情報を共有しながら、楽しく読書に親しむ機会の提供を継続的に行う。 ○一人学級における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、他校とのオンライン学習や地域人材を活用するなど、工夫した取り組みを行う。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	B
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	B
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート A	B	A
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート A	B	A
③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。 ・教師アンケート C ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート B	C	B	
④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分には良いところがある)。 ・教師アンケート B ・児童アンケート B 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・教師アンケート B ・児童アンケート B	B	B	
<p>(成果と課題) ○毎月の教育相談や学校アンケートを行い、児童の悩みや困り感の把握を行い、いじめや不登校の未然防止を図ることができた。 ○日々、児童の変容についての情報交換が職員室で行われているため、常に全教職員が共有できている。</p> <p>(改善策等) ○昨年度は、児童の自己有用感の評価が低かったが、今年度は少し意識の変化が見られる。今後も、自分には良いところがあることに気付かせながら、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B	
	②	働きやすい環境づくり 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B	
③	他の教職員のサポート体制の充実 教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B		
<p>(成果と課題) ○教職員一人一人が、工夫を凝らしながら働きやすい職場環境づくりに努めたり、若手教職員を支えたりする体制が構築できている。 ○昨年度から、物的環境を少しずつ整えたり、運動会の準備などの効率化による時間短縮を行ったりしてきたが、教職員数が少ないため限界を感じている。</p> <p>(改善策等) ○学校行事等、これまでの踏襲にこだわることなく、規模縮小や時間短縮を図りながら教職員の負担軽減を図り、長時間勤務の解消に努め、子供と向き合う時間を確保する。 ○地域コーディネーターや公民館主事との連携を図ることで、教職員が担う業務の負担軽減を図る。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A	
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A		
		②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート		B
・保護者アンケート ・地域アンケート				A A		
③	来客・相談体制 来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	A		
		・保護者アンケート ・地域アンケート	A A			
<p>(成果と課題) ○学校運営協議会では、教務主任と生徒指導主事が参加し、委員の方々との情報共有を図ることができる体制が整った。 ○今年度より、食育に関するホームページを積極的に発信することで、地産地消の推進状況や栄養バランスの大切さなどをアピールすることができた。</p> <p>(改善策等) ○社会に開かれた教育課程を実現するためには、学校運営協議会との一体的な推進が不可欠である。今後も地域や学校の課題を共有し、将来の地域を支える子供たちの育成に向けて取り組んでいきたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満